芸豪烈伝その21

国本晴美（くにもとはるみ）

「これからが私の出番ですよ」

写真・森　幸一ほか　文・おさだ鬼吉

くにもと　はるみ　本名・加藤正恵。昭和12（1937）年11月29日うまれ、東京は豊島区出身。小学校をでて梅乃井鶯声（のちの東家楽遊）に入門。昭和24年、梅乃井正子で初舞台、『神崎東下り』を読んだ。昭和34年、21歳で天中軒龍月（りゅうげつ）と結婚。昭和40年ころに浪曲界から身を引き、51年に復帰。52年、幹部昇進披露。得意ネタは『まがらのお秀』『源太時雨』ほか。

相撲でいえば、かつての富士桜や福の花。一瞬の休みもなく突き押しで圧倒する小気味がよい小兵の鉄砲玉タイプ。山椒は小粒でピリリと辛い。ピリリと辛くて栄養がある小鯵の南蛮漬けのような晴美師匠だ。

千葉県はJR滑川駅にある自宅を訪れ、話を聞きました。

〜利根の川風たもとに入れて、は『天保水滸伝』の外題づけ。晴美師の自宅は利根川べりの田園地帯にある。滑河観音というお寺の前でパン屋を営んでいる。

「この店は中根屋といって昭和27年から雑貨を商っていたんですけど最近パン屋にしたんです。実はこの5月に浪曲だけに身をいれようと、店をたたんだけど浪曲だけじゃ収入がないんで、また始めたのよ。ちょっと、だらしがないかしら。アッハハハハハ」

素顔の晴美師も舞台同様さばさばして、あけっぴろげでおおらかで、ユーモアがある。

「私もね浪曲は45年以上してるんです。昔はね、稽古が嫌いでほとんど練習をしなかったの。

それがね、いまは稽古をしてるの。勉強したいのよ、どんどん。どういう変化かしら。武春ががんばっているという思いがあるんでしょうか」

ご存じのように国本武春は晴美師の実の息子だ。浪曲界の親子鷹だ。

昭和34年に四代目・天中軒雲月の弟子の天中軒龍月と結婚。見合いだった。「篠田実（二代目）さんや周りのひとたちが、龍月さんはいい人だと強く勧めてくれましてね」

龍月師は昭和39年に浪曲界を引退。サラリーマンになった。そして昭和47年、42歳の若さで他界した。

「龍月さんは関東では珍しいケレン読

みで『水戸黄門』が得意でした。日常生活でも人に気を使ってケレンを振っていました。

浪曲をやめたのは一家の団欒を大切にしたかったからです。心筋梗塞であの世に行ったんですが、早く亡くなることを予知していたんですかね。いま、あのひとの厚生年金をいただいています。13年の短い夫婦生活でした」

子供は武春ともうひとり息子がいる。いまはニュージーランドのホテルで、板前をしているそうだ。

「武春には私が学校にいかなかった分、がんばって素晴らしい人になってほしかった。小学校の文集に総理大臣になるって書いてましたよ。

蛙の子は蛙ですね。武春は自分が信じる道を進んでほしい。浪曲は一人前になるのに40年、50年かかる芸です。私がアドバイスできるのは、お客さんにはサービスしすぎてしすぎることはないということです」

昭和34年の大晦日に結婚した。「二人とも忙しくて、この日でしか出来なかったの。場所はこの家の前の滑河観音です。龍月さんは小林旭に似て、いい男でした。こうして写真を見ると美男美女ですね」

11歳から浪曲師になって社会で働いてきた。

「先輩や関係者には、可愛がってもらいましたよ。こんなふうに女っぷりがいいから、ハハハ。

私らお金は一円から苦労してますからね。母が、泥棒以外ならお金になることはなんでもしろ、と言ってまして、その考えが身についてますね。働くために生まれてきたと思ってますよ」

晴美師の魅力は、ちょっとかすれて聞こえる迫力満点の声だが、

「いいえ、家にある急須と同じで古くて出ないんですよ、声は。舞台で10回やって7回でませんよ。って、えばっちゃいけないけど、ハハハ。悲しいですよ、声が出なくて。

舞台でテープを録って聞くと、こんなに下手かとガッカリするわ。でもまだ上達の余地があるのよね。ハハハ」

いつでも前向きでポジティブ思考なんですね。ところで浪曲の将来はどうなりますか。

「新弟子が増えて、明かりが射してきましたね。

これからは若い人をどんどん抜擢するんです。たとえば（玉川）福助をモタレ（トリの前の出番のこと）にしてもいいんです。そうすれば若手も発奮して勉強するし、芸風も変わるし。

芸歴の古い方が、いつまでも出番の順番がどうだ、トリは誰だなんて言ってる時代じゃないんですよ」

晴美師匠の今後は。

「これまでは舞台で肩に力を入れすぎていました。二代目の虎造先生のような軽い浪曲をめざしますよ。

私の出番がやっと来たという気分なんですよ。これからです、私は。注目してくださいね」

いい芸は、いわゆる癒（いや）しと救済だ。疲れた身体が芸の効力で回復していくのだ。

晴美師の話も聞いていると元気が出てくる。明日への活力が湧いてくる。

この取材の帰り道、利根の川風をポロシャツに受けながら心身が軽くなった自分に気がついた。酒を断って病気が治った「平手造酒」になったような気分だった。

晴美師匠、ありがとうございました。

公私ともに充実している晴美ファミリー。左から曲師の岩崎節子、武春の師匠・東家幸楽、武春、武春夫人の美枝さん、晴美師の膝には武春の長男・名音（なおと）くん。浪曲界の一大勢力だ。「こうして見ると私もメガネ美人ね」

浪曲… これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

浪曲家の皆さん…頑張って下さい。

多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉